

グループワークで出た意見まとめ
「令和5年度 入退院支援連携強化研修会（ガイド編）」

【日 時】令和5年11月17日（金）18：30～20：00

【内 容】

テーマ：関わっているその人のイメージ，ズレているかも？

～病院・在宅・施設間のズレないイメージの情報共有とは～

① 事例を通して，イメージのズレを考える

発表者：北海道MSW協会南支部 医療相談員 岩城 朋美 様

② グループワーク

発表で出された事例をもとに，普段の日常業務でのイメージのズレはなぜ起こるのか？ズレる事での困り事を話し合い，今後に向けてグループ内でディスカッションをします。

◆イメージがズレる原因

（医療側）

- 生活がイメージできない。
- 入院前の状態が想像できない（本当に歩いていた？と思ってしまう事がある）
- 本人の安全ばかり気にして，不要な手すりを準備して能力をさげていた。
- 病院でできることが在宅でもできるだろう
 - *サクション：医療側1～2回，介護側どうするの？
 - 介護のサービスの限度がある事をしらない
- 在宅でできる事をしらない（少しでもできないと施設入所となる事がある）
- 院内での情報共有不足
 - 在宅がイメージできているNS，想像できないNSによって違う（経験）
- 情報のズレ
 - スタッフの認識不足で紹介した時と状態がかわっている事が伝わっていない
 - 在宅を想像して情報を伝えられていない

（介護側）

- 入院前の状態と病院で「治った」という状況に差（ズレ）があるため，こんな状態で帰すなんて！の不満になる
- 高齢者が入院するという事の理解がちがう。
 - 例）100歳の患者。ただでさえADLは落ちていく状況。入院するとADLが下がるのは理解しているのか。ACPどうなっていたのか？
- 車いすでしか会う事のない利用者のイメージができない
- 本当に歩いていた？ごはん食べていた？入院前の認識のズレ
- 入院前からADL落ちていたのでは？時間軸のズレ
- サマリー作成のタイムラグがある

(共通)

- あいまいな言い回しのためイメージがズれる
具体的な表現の不足→人により受け取り方が違う
例)「ちょっと」「たくさん」「前は」など
- 思いやりが欠けている
- 職種として見方がちがう
- それぞれの解釈が違う
年相応についてなど解釈
移動等 1 つの事を意図的に確認しないとズれる
やわらかい食事(歯を入れないで食べれるものにされているだけ?)とは
- 在宅ケアマネだと利用者の生活について頭にイメージがあり、病院側だとその時の状態のイメージがあるので双方にズレがでる
- 家族はできていると思っているけど、ケアマネ情報はできていない事がある
- 時間軸でアセスメントできていない(アセスメントは共同作業)
各サービスからの情報提供、ズレがいつから生じているかについてのアセスメント
時間軸・入院前からADLおちていた可能性がある(病院側から意見)
- 退院前カンファ
情報ズレている。病院：情報もっていない人参加している?
- 知識技術に差がある。(患者の思いを聞ける技術など)
- お互い今の目の前の情報しか伝えきれていない
- 高齢者が入院するという事に認識のズレ

◆イメージのズレに対する対応

(医療側)

- 生活イメージできるため、在宅の情報は早めに知りたい
- 家屋調査で現場をみる

(介護側)

- 自宅の様子を伝える
*こういう人でも生活しているんだ

(共通)

- 病院内での正確な情報共有
介助かや住環境、一部介助ってどんな介助かの詳細な情報
例)トイレ入るとできる、トイレまでの移動
「できるADL」「しているADL」を分けて伝える
タイムリーな口頭での情報
フレッシュな情報
伝える、見える化：画像、動画
目で見える情報が必要
• 家屋調査(入院時、退院前など)

- ・病院リハビリ見学

入院することでの時間軸のズレからまた基線に戻る為にも、家でどうしたいのかイメージを共有

介護士さんもカンファレンスに参加（介助がうまい、よく状態をみている）

利用者の情報が少ない時は他のサービスの情報をもらい情報収集

「思う」ではなく確実な情報

共通言語

- ・ゴールを決める→退院近くの姿（カンファレンスを2～3回）

入院時に帰るためのゴールを共有する

例）歩けば帰れる？車いすでもOK？など・・・

在宅が望む退院時の患者像と家族が望む退院像と病院の退院像とズレがあってはいけない。

退院前カンファレンスで分かり合える事がある

- ・入院の早い段階でのカンファレンスも大切

一度話したからといって伝わっているとは限らない

アセスメントは共同作業で、登場人物を多くする

- ・話しやすい関係性、良好な関係性を築く

*気をつかうことも必要だが、お互い遠慮せず細やかなやりとりがズレを防げる？

文字、書式も大事だがズレをうめきれない

言葉使い

伝え方（在宅病院双方への配慮）

書面だけではなくその後の確認、興味を持つ

聞いた事を聞き直す

聞くタイミング

- ・IDリンク活用、はこだてサマリー（共通のツールをもっと有効活用）

- ・知識が足りないスタッフを育成する事（患者の思いを聞ける人材）

◆各職種からの意見

- ・転ばないようにではなく、起き上がれるように（専門職）
- ・歩ける工夫がもっとできたのではないか（福祉用具がすべてではない）
- ・歯をいれて食べているかまで確認。
- ・軟食とはどの程度？誤嚥？肺炎の要因として、口腔ケアしていたか？
- ・のみ忘れなのか飲まない原因を探る。

例）自分では「薬のんでいる」実際は飲めていない